

[原著論文]

日中協定校における日本語教育カリキュラムの比較研究

于 衛紅¹⁾, 吳 素蓮²⁾, 松田 高史³⁾, 沙 秀程⁴⁾

Comparative Studies of the Japanese Education Curriculum in Japanese and Chinese Partner Institutions

Weihong YU¹⁾, Sulian WU²⁾, Takafumi MATSUDA³⁾, Xiucheng SHA⁴⁾

Abstract

By the year of 2016, Fukuhara Gakuen of Kyushu Kyoritsu University has reached academic exchange agreements with more than thirty universities covering twelve countries and regions including China, Korea, Australia and USA, and admits a great number of Students studying abroad every year. Among others, the exchanges with China are mostly practiced in the form of “2+2”, according to which students are chosen from sophomore Japanese majors in China and enrolled in the junior classes of economic department of Kyushu Kyoritsu University. To be more specific, students first learn two years’ Japanese language education, and then learn specialized courses in economic department of Kyushu Kyoritsu University. This means that the students are supposed to acquire adequate language ability to understand economic courses in Japanese. Therefore, Kyushu Kyoritsu University offers courses of Japanese to improve the Japanese ability of overseas students. In the beginning, students are arranged into different classes in accordance with their Japanese levels, and this is a common concern of the agreement parties. With regard to the Japanese learning transition from China to Japan, Inner Mongolia University, together with Tianhua College, Shanghai and Kyushu Kyoritsu University started a jointed investigation three years ago and has achieved some effects. As part of the cooperative research, this paper conducts a questionnaire with the students from Inner Mongolia University and Tianhua College as subjects, and analyzes the results and the possible future research topics. It is concluded that the overseas students are generally satisfied with the Japanese teaching in the schools in question. Meanwhile, this paper discusses the three schools in terms of the Curriculum design, textbooks and ways of teaching, and point out that one focus in the future research is how to adopt more effective ways of Japanese teaching so as to improve the overseas students’ Japanese abilities needed in employment and study, both in China and in other countries.

KEY WORDS : Overseas students, Japanese language education, Curriculum design, Textbook, Comparison in China and Japan

1) 内蒙古大学外国語学院
2) 上海師範大学天華学院
3) 九州共立大学名誉教授
4) 九州共立大学共通教育センター

1) Inner Mongolia University
2) Tianhua Institute of Shanghai Normal University
3) Kyushu Kyoritsu University, Professor emeritus
4) Kyushu Kyoritsu University, Career and General Education Center

1. はじめに

九州共立大学の海外協定校留学生受け入れ体制について

福原学園・九州共立大学（以下、九共大と略記）は、早くから海外の大学等との学術交流を続けていたが、平成5年（1993）、華東師範大学との初の姉妹校提携を機に、福原学園設置三大学（九共大・九州女子大・同短大）共同の国際交流センターを設置し*、一層の提携拡大を図った。その結果、今日では中国、韓国、タイ、オーストラリア、アメリカなど12カ国・地域の30余の大学と協定を結び、特に九共大の経済学部においては中国から毎年、数多くの留学生を受け入れるに至っている。

※現在は、各大学の入試課および学生支援課が留学生の受け入れ業務にあたっている。

海外協定校からの留学生受け入れに際しては、基本的に2+2システム、すなわち協定校での2年間の修学を経たのちに九共大の編入学試験を受け、合格後に3年次に編入学するという形を取っている。協定校側では、日本での2年間の留学により4年間の修学とみなし、卒業資格を付与することになる。

九共大に編入学した後、学期初めに“プレイスメントテスト”が行われる。このテストは、協定校以外の、すなわち日本の語学学校で日本語を勉強して九共大に入学した留学生を含めて、すべての留学生が九共大で最初に受けるテストであり、その結果により日本語の語学授業科目のクラス分けがなされる。また、後述する「留学生カリキュラム」の適用区分も決められる。ところで、編入学試験の受験資格に〈本学での教育を受ける上で問題のない日本語能力を有する者〉という事項があり、協定校でも1-2学年の間に相当な日本語教育はなされている。しかしながら、個々の留学生についてみれば、その能力にはかなりのバラツキがあるというのが実情である。本論者は、そうした事情を念頭に置きながら、協定校における日本語教育、特に留学生の多い中国の大学における日本語教育の実情、その実情を受けて九共大では日本語教育をどのように構築したらよいか、かつ相互の連携をどのように図るべきかを追究しようとするものである。その場合、ここ数年来、このテーマで共同研究を続け、九共大側では特別研究として助成を受けて現地調査を行い、すでに論考がある上海の天華学院、および内モンゴルの内蒙古大学を直接的な研究対象とした。また本稿では、その第一弾として、九共大で学ぶ協定校からの留学生

を対象にアンケート調査をおこない、その結果および課題の提示を主眼とした。したがって、アンケート結果の詳細な分析と論述、課題解決への具体的なアプローチについては、次稿を期したい。

2. 内蒙古大学における日本語学科カリキュラム

内蒙古大学では2003年から日本語専攻生に対してのダブルメジャー制、2+2制度、2+3制度が導入された。それから、毎年、20人以上の学生を日本の各大学に派遣し、日本の大学との本科教育連携を受け続けてきた。今まで、200人以上の学生に留学の機会を提供し、たくさんの国際的な日本語人材を育成したといえる。今後の留学事業をより一層の発展を図るために、九共大に派遣された学生を対象として、中国国内の日本語教育と留学先の日本の大学の日本語教育に現れた問題点についてアンケート調査を行うことになった。本調査は、協定校の中国内蒙古大学、天華学院及び他の中国の大学から2+2人材養成プロジェクトによって、九共大で経済・経営学を専攻する学生の学び状況を把握し、留学生の能力アップと学習ニーズに合致した教科を提供することを意図したものである。また、学生の学習状況を十分に把握するために、留学生の中国での日本語学修の様相を紹介する必要があると思われる。

内蒙古大学では、中国教育部高等教育学校外国語専門教学指導委員会により公表された「高等院校日语專業基礎階段教学大綱」に基づき、授業活動を展開している。大綱には「学習者が確実に学習をし、日本語の基礎知識を掌握する；聞く、話す、読む、書くという四技能をトレーニングする；言語応用能力を養成する；日本社会文化知識を勉強し、異文化を理解できる能力を育成し、高学年の日本語学習に確実な基礎を築く」という教学目的を定めている。主に発音、文字、語彙、文法、表現及び概念、機能など6項目を中心として、最低限の884時間の授業時間を受け、1600くらいの日本語常用漢字と5600前後の語彙を習得しなければならない。

したがって、日本語専攻の基礎段階において、「総合日本語」、「日本語会話」、「日本語聴力」という三科目を2年間の授業で貫く大学がほとんどである。留学協定校の実施する選抜試験を順調に受けられるように、内蒙古大学日本語専攻は、基礎段階にある学生に「日本語発音」、「日本概況」、「日本歴史」、「読解と作文」、「翻訳」の科目も開設した。授業時間数からみれば、大綱

の指定時間に達したが、学生の総合能力はまだ決められた目標に到達していない。言語学習環境のほかに日本語の教授法、講義やテキストなどにも問題があるのではないかと思う。内蒙古大学の日本語教育には「言語応用能力より言語知識そのものの教授に重点を置

く」という実状が続いている。学生の言語応用能力・文学鑑賞能力・国際的なコミュニケーション能力・思弁能力・研究能力・自主的な学習能力と実践能力を養成するには不利だと思う。

Table 1 内蒙古大の日本語教育教材一覧

	教材名 ※簡体字については、適宜〈〉で日本語漢字 もしくは日本語訳語を()で補記	教材使用学年・学期 ex. 1-1 ⇒第1学年第1学期	出版社
1	基礎〈礎〉日语〈語〉综合教程1	1-1	高等教育出版社
2	基础日语综合教程2	1-2	高等教育出版社
3	基础日语综合教程3	2-1	高等教育出版社
4	基础日语综合教程4	2-2	高等教育出版社
5	基础日语口语教程1	2-1	高等教育出版社
6	基础日语口语教程2	2-2	高等教育出版社
7	基础日语口语教程3	3-1	高等教育出版社
8	みんなの日本語初級Ⅰ 本冊	1-1	スリーエーネット出版
9	みんなの日本語初級Ⅱ 本冊	1-2	スリーエーネット出版
10	日本語聴力入門編 (学生用第二版)	1-1	华东师范大学出版社
11	日本語聴力1	1-2	华东师范大学出版社
12	日本語聴力2	2-1	华东师范大学出版社
13	基础日语听〈聴〉力教程3	2-2	高等教育出版社
14	基础日语听力教程4	3-1	高等教育出版社
15	日本世情	2-1	外语教学与研究出版社
16	日语概说〈説〉	1-1 3-1 3-2	上海外语教育出版社
17	高级〈級〉日语1	3-1	上海外语教育出版社
18	高级日语2	3-2	上海外语教育出版社
19	高级日语3	4-1	上海外语教育出版社
20	基础日语写作(=作文)教程1	3-1	高等教育出版社
21	基础日语写作教程2	3-2	高等教育出版社
22	日本历〈歴〉史	2-2	自编教材
23	新日本文学史 及教师自制辅助教材(教师自作辅助教材)	3-1	文英堂
24	日语口语教程(高级)	3-2	上海外语教育出版社
25	同声传译(同时通讯)	3-2	大连理工大学出版社
26	口译(通讯)教程	3-1	外语教学与研究出版社
27	同声传译技术(=同时通讯技术)	4-1	日本研究社
28	中日文化交流史	4-1	北京大学出版社
29	日语泛读(速读)教程1, 2	1-2 2-1	高等教育出版社
30	日本語教育史研究序説〈説〉	4-1	スリーエーネット出版
31	日本簿记〈記〉入门〈門〉	4-1	上海外语教育出版社

3. 天華学院における日本語学科カリキュラム

天華学院の場合も、「高等院校日本語専攻教育大綱」に基づき、日本語教育活動が充実に行われている。

入学直後のゼロ初級からの2年間には専ら日本語の習得のために「精読」を中心に据え、会話と聴解により「話す」ことと「聞く」ことを補強している。このような1・2年次の徹底した基礎日本語教育が学生に日本語力を身につけさせることを可能にしているものと考えられる。

基礎段階の日本科目として、「精読」はメインである。つまり、語彙習得と発音、文法、読解等の総合的な日

本語の指導をする科目である。ほかに、「聞く」「話す」「書く」「読む」という技能を伸ばすために日本語聴解、会話、作文、新聞講読、日本事情、日本文学などの授業も設置されている。

初級の2年間に使用される教科書は『新編日語』（上海外语教育出版社）1～4である。これは日本語未習者を対象にしたテキストで、レベル的には日本語能力試験N2の程度までをカバーできる内容となっている。テキストの内容は幅広く、大学生活、日本語や日本人・日本文化についての話題から、ニュースや環境問題まで、面白さや知識豊かさが求められている。

Table 2 天華学院 日本語教育カリキュラム表

课程类别 (課程類別)	课程性质 (課程性質)	课程及实践环节名称 (課程及实践部分名称)		各学期周学时分配 (各学期の週時間配分)									
				1-1	1-2	2-1	2-2	3-1	3-2	4-1	4-2		
〈学 学 科 基 基 礎 課 〉	必修課 (課)	7210011	基礎日語 I (基礎日語)	12									
		7210012	基礎日語 II "		12								
		7210013	基礎日語 III "			12							
		7210014	基礎日語 IV "				12						
		7210161	高級日語 I (高級日語)					10					
		7210162	高級日語 II "						10				
		7210163	高級日語 III "									8	
学时学分小計 (各週授業時間数小計)				12	12	12	12	10	10	8			
〈専 専 攻 課 〉	必修課 (課)	7210091	日語泛讀 I (日語読解)		1								
		7210092	日語泛讀 II "			1							
	必修課 (課)	7210131	日語語法 I (日語文法)				2						
		7210132	日語語法 II "					2					
		7210171	日語聴力 I (日語聴解)		2								
		7210172	日語聴力 II "			2							
		7210173	日語聴力 III "				2						
		7210051	日語会話 I (日語会話)		2								
		7210052	日語会話 II "			2							
		7210053	日語会話 III "				2						
		7210121	日語作文 I (日語作文)			2							
		7210122	日語作文 II "				2						
		7210123	日語作文 III "					2					
		7210081	日語筆譯 I (日語翻訳)					2					
		7210082	日語筆譯 II "						2				
		7210181	日語口譯 I (日語通訳)					2					
		7210182	日語口譯 II "						2				
学时学分小計 (各週授業時間数小計)					5	6	8	8	4				
限选课 (限定選択科目)	見〈見〉表三												
任选课 (任意選択科目)	見〈見〉表四												

※第4学年第2学期に专业実習〈専攻実習〉および卒業論文〈卒業論文〉の授業が、それぞれ8週間、12週間実施される。

Table 3 日本語専門限定選択科目

課程番号 (課程番号)	課程名称	开设学期 (開設学期)	学时 (授業時数)	学分 (単位)
7210070	日本概況〈況〉	2	16	0.5
7210110	日语外刊(日本語の定期刊行物)	5	20	0.5
7210190	日本文学作品选读(選択講読)	6	30	1.5
7310070	日语古典语法	7	30	1.5
7310080	日本文学史	7	30	1.5
7310100	商务日语(ビジネス日本語)	7	30	1.5
7310110	论文设计指导〈論文設計指導〉	6	20	0.5

※7.5単位以上の科目選択が必要

Table 4 日本語専門任意選択科目

課程番号 (課程番号)	課程名称	开设学期 (開設学期)	学时 (授業時数)	学分 (単位)
7410070	日语语音(日本語のイントネーション)	2	16	0.5
7410080	日语能力拓展训练(日本語能力発展訓練)	4	20	0.5
7410090	日本文化	5	20	0.5
7410100	日本影视动漫赏析(日本のテレビ・映画・アニメーション鑑賞分析)	7	20	0.5

※少なくとも1単位の科目選択が必要

教材の構成から見ると、一課ごとに、本文、会話、応用文、単語、言葉と表現、ファンクション用語、練習というようになっている。単語の意味と文法・文型の解説は中国語である。練習は、漢字の読み、穴埋め、本文・会話・応用文の内容に対する質問、翻訳(中日訳・日文中訳)という形になっている。

作文以外のメイン科目は、中国人の教師が担当することになっている。入門段階は、中国語で文法説明や本文解釈などを行なうことが多いからである。学生の語彙量と聞く力が伸びるにしたがって、教師が日本語使用を増やすようにしている。2年間の学習を通して、日本語能力試験N2レベルに達することは教師と学習者の共通目標といえる。

基礎日本語教育の指導法においては、次のようなケースが多く見られる。

新しい一課が始まると、まず新出単語から勉強するのが普通である。単語には、表記(漢字の書き方、振り仮名、送り仮名)、発音(アクセント含め)、品詞、意味、使い方などの要素がある。指導するとき、これらの要素を逐一学習者に教えるのが一般的なやり方である。次に、文法解釈、例文説明なども欠かさずルーチン化される。さらに、本文に入ると本文朗読・会話も必ず抜けてはいけないステップだと思われる。特に、

学生の発話力をアップさせるには、「タスク型」会話指導法が必要である。学習者はこういう「タスク型」授業を通して、日本語の勉強だけでなく、コミュニケーション能力の向上、クラス全体の人間関係の構築にもつながるといえる。さらに、総合的な力をつけるのに、聴解も重要視すべきものだと思われる。聴解指導のとき、教師は教科書にこだわらず、アニメ、テレビ、また日本の童話など簡単に初級レベルの学習者にふさわしい内容を取り入れるべきである。能力試験に慣れるように、初めから模擬テストおよび試験の過去問も利用して練習すべきである。また聴解試験に出る単語や文法、そして質問の傾向などをよく分析研究し、よく出題される単語、文法を使用して、聴解、会話の素材を作るのも良い方法だと思う。

ようするに、語彙指導、文法指導、会話指導、聴解指導において、教師自身の授業への熱意ばかりでなく、より効果的な指導法を工夫することも大切である。例えば、いかに学生のさらなるやる気を引き出すか、どのようにして教室の雰囲気より活発にするか、あるいはもっとリラックスして授業展開できるかは、いずれも教師自身の授業改善への積極性及び教授法研鑽へとつながるものである。教師各自の重要な課題とも言えるだろう。

4. 九州共立大学の〈留学生カリキュラム〉

九共大では、2011年度に〈留学生カリキュラム〉を設定し、すべての留学生に適用している。従前は、留学生も日本人学生と同じカリキュラムであったが、学制の違いから、協定校からの留学生の大半が9月(日本では学年の後学期)における編入学であり、同一のカリキュラムでの対応が困難になったことが、新設の主な理由である。

この留学生カリキュラムは、留学生の入学・編入学の学年・学期に応じた内容となっている。4月に1年生として入学した留学生(主として日本の日本語学校卒業生)から、協定校の3年次9月編入生までの4種類、その4種類に、プレースメントテストの結果により「初級」「中級」の2つのクラスができるので、それぞれがプラスされて計8種類。また、日本語能力の関係から本来の2+2ではなく、九共大の2年次に編入学して2+3となった留学生のためのカリキュラム2種があり、現在に至るまで10種類のカリキュラムが運用されている。ただし、プレースメントテストで「上級クラス」に認定された留学生は、この留学生カリキュラムの適用を受けず、日本人学生と同じカリキュラムで学ぶ。

これら10種類のカリキュラムのうち一番基本となる2+2、すなわち〈協定校から3年次9月に編入学し、日本語中級クラス〉となった留学生用のカリキュラムを11ページに掲載している。日本人学生と同じ必須科目に加えて、日本語の「中級」および「中～上級」が卒業に必要な指定科目であり、彼らはこの科目により日本語能力検定試験N1合格をめざす。また、「総合科目特殊講義A・B」により、将来の就職・進学等に備えてビジネス日本語・日本語コミュニケーションなどの勉学に励む。[※]

※現在は、福原学園三大学で留学生カリキュラムが共通化されたことで、若干、科目名称・内容などが変更になっている。

一方、日本語「初級クラス」に振り分けられた留学生は、留学生カリキュラムの日本語授業科目においては「中級クラス」と同じ適用内容になるが、日本語能力補充のために、福原学園三大学設置の共通教育機構のもとに設けられた共通教育支援室が開設する日本語初級クラス用のサポート授業を受講する。この授業で取得した単位は、九共大のいわゆる自由選択科目の単位として、卒業単位に組み込むことができる。

5. 九州共立大学 日本語教育科目の教材について

九共大に入学・編入学した留学生に向けた日本語教育科目で実際に使用されている教材を以下の表に示した。紙幅の関係で詳述は次稿に譲るが、表に示された使用学年次とは別に、初級から上級までカバーする教材が豊富に用意されており、個々の学生の日本語能力に細かく対応する体制となっている。

Table 5 九州共立大学日本語教育関係科目教材一覧(2014年度)

	使用教材名
1	みんなの日本語初級Ⅰ 本冊
2	みんなの日本語初級Ⅰ(練習C・会話)
3	みんなの日本語初級Ⅰ(やさしい作文)
4	みんなの日本語初級Ⅰ (書いて覚える文型練習帳)
5	みんなの日本語初級Ⅰ(聴解タスク25)
6	みんなの日本語初級Ⅱ 本冊
7	みんなの日本語初級Ⅱ
8	楽しく聞こうⅠ
9	楽しく読もうⅠ
10	DVDで学ぶ日本語
11	日本語聴力入門編(学生用第二版)
12	中級を学ぼう(中級前期)
13	中級を学ぼう(中級中期)
14	学ぼう!日本語 中上級
15	日本語能力試験N3
16	日本語能力試験N2対策
17	日本語能力試験N1対策
18	日本語集中トレーニング
19	留学生のためのアカデミックジャパニーズ聴解
20	大学・大学院生留学生の日本語②作文編
21	留学生の日本語①読解編
22	日本 — 姿と心

※ 1-7, 12-13 スリーエーネット出版

8-9 凡人社 10 国際交流基金

11 華東師範大学出版 14 専門教育出版

15-17 日本アスク出版 18 アルクほか

19 東京外国語大学留学生センター

20 アルク出版

21 アカデミック・ジャパニーズ研究会

22 日鉄技術情報センター学生社出版

6. 九州共立大学協定校留学生へのアンケート

冒頭に述べたように、本稿執筆における主要な〈教材〉は、九共大に実際に留学している協定校からの編入学生の生の声である。そして、こうした留学生の感じ方、意見をもとに中国各大学および九共大の日本語教育の在り方を検証し、さらなる授業改善および一層の連携を図ることが、主要な目的となる。以下、実際のアンケート作成・実施要領などを記す。

※アンケート結果は41ページのTable7参照

1. アンケート調査の目的

中国の協定校から2+2人材養成プロジェクトで九共大に編入学した学生の修学状況を把握し、留学生の能力アップと学習ニーズに合致した教科を提供するための資料とすることを意図した。

2. 調査対象

平成26年度在籍中の全留学生に対して実施したが、本稿の分析対象は協定校からの編入学生のみとし、九共大での修学経過年数（過年度生を含む）により区分した。対象学生数は計87人、回答学生は78人で全体の回答率は89.7%であった。特に2015年度9月に編入した留学生は、40人全員が回答した。

3. 調査方法

調査目的と個人情報保護を明記した説明用紙およびアンケート用紙を授業時に学生に配布し、その場でアンケート用紙に記入させた後、回収した。

4. 調査時期

平成27年11月～28年1月

5. 調査内容

(1) 留学生の中国の大学での学習レベルをチェックする諸項目

留学前に中国の大学でどの程度の日本語能力を身につけたかを中心に、「専門科目をマスターできる日本語能力」「意欲的に学習する能力」「コミュニケーション能力」など7つの項目を挙げ、学生の日本語学修到達状況とともに、中国の大学における日本語学習科目設置及び教授法の改善点などを改めて確認した。

(2) 九共大での学習状況を確認する諸項目

中国の大学で2年間の勉強を終えた留学生が九共大で受ける日本語教育について、「授業時間数」「授業科目設置」「使用教材・資料」「授業内容難易度」「教員の教授法における満足度」「卒業後の進路」などを8項目にわたり問うた。その目的は、留学生の九共大での学習状況及び学生生活を含めた満足度を確認し、教科設置と教授法の改善点を明確にすることである。

7. 留学生アンケートの結果、および協定校から見た九州共立大学の日本語教育について

本節では、留学生アンケート結果から差しあたり読み取ることのできる内容を、アンケートの2つの観点に即して記すことにしたい。なお、本節でのコメントは、数値的な集計結果についてのみに留め、自由記述に基づく分析等については、次稿に送る。

1) 中国での日本語修得状況について

中国の各大学での日本語修得状況については、各大学の事情により少々異なる。ここでは、内蒙古大学の状況を記す。

内蒙古大で2年間の課程を履修した者には、大学所定の全学共通履修科目の40単位を修得したうえで、日本語言語文学専攻が開設する専門科目60単位を修めることが要求される。基礎段階においては、主に基礎日本語(1,2,3,4)、日本語会話(1,2,3,4)、日本語聴力(1,2,3,4)、泛読、日本文化、作文などの科目が設けられている。口語上達のための日本語会話(1,2,3,4)と泛読は日本人教師が担当する。一方、文法・語彙中心の科目は、中国人教師の担当となることが多い。

学生の日本語能力については、2年生の後半に中国国内で施行される日本語専業4級試験合格、または日本語能力試験2級に参加して合格、あるいはそうした試験合格に準ずる日本語能力を有すると判断された者が、適格学生として九共大に推薦されて留学する。

2) 協定校の立場からみた九共大の日本語教育

内蒙古大学は2012年と2014年に、上海師範大学天華学院は2012年と2015年に、それぞれ教師1名を九共大に派遣し、ともに任期1年の客員教員として日本語教育の授業を担当した。各自が一年間の教学活動を通じて感じたことをまとめて、次の五つの面から述べる。

1. 学生の日本語能力に適応する講義内容の提供

九共大に入学した留学生の日本語レベルは、国、出身校によって相当な個人差が見られる。そこで、入学後まずプレイスメントテストを行うことになっている。各レベルに適応する講義内容を提供しようとして、この制度を通して習熟度別にクラスを編成するので、学生の学習効果を高めるには効果的だと思われる。

2. 授業を担当するのは主に日本語ネイティブ教員

留学生コースの授業担当者のほとんどが、日本語教育の資格を持つ日本語ネイティブの教員である。日本

人教員の豊かな言語表現は、留学生の口頭表現力と聴解力の養成において、その効果が顕著である。なお、中国の大学に勤務している日本人教員でも、日本語教育の資格を持っている者はまだ少ない。

3. 教科書が多様多彩

中国の国内に比べて、九共大では日本語教授用の教科書・教材が豊富にそろっている。初級から上級まで、レベル別のもはもちろん、作文、聴解、読解、会話など異なった言語能力をアップさせる科目別のもも数多くある (Table5参照)。さらに、生活用、研究用など、使用目的によるものも整っており、かつそれらは教師が手軽に使用できることから、授業をデザインする時、豊富な素材を用意することが可能になっている。

4. 日本語を浴びる言語環境

外国語の習得効果は、目標言語の使用環境の相違に大きく左右される。本場で日本語を勉強することは、日本語能力の向上に非常に有利であることは言うまでもない。学生は、自身が置かれた環境で、習った知識を自然にアウトプットし、自ら検証することもできる。すなわち、自分の使っている日本語が正しいかどうか、会話場面に適応しているかどうかは、知らず知らずに覚えられ上達する。それと対照的に、日本語に限らず本場以外の国での外国語習得は、学習環境が限られているために自己検証するチャンスが少なく、上達にはかなりの努力を必要とする。

また、九共大の留学生は、日本語の授業ばかりでなく、同時に自分の所属する学科の専門分野の講義も受けている。それは当然ながら、日本語の勉強にも大変役立っている。さらに、余暇を利用したアルバイトも、言語習得の大きな助力になっている。特に仕事等の社会生活では、普通の社会人との交流をとおして、より自然な日本語を身につけられるからである。

5. 効果的な教授法

普通、中国人の日本語教師による教授法といえば、「文法翻訳法 (間接法)」及び「直接法」という二つの教え方がよく挙げられる。どちらのほうが効果的なのか、それは学習者の状況 (漢字文化圏かレベル等) にもよるものなので、一概には言えない。一般的に言えば、「文法翻訳法 (間接法)」は、最初の入門段階において、単語の意味、細かな文法の解説、類義語の使い分けなど、授業を構造的に分かりやすいものにするため、内容の理解と知識の習得にはとても有効的な教授方法である。一方、中、上級段階になると、「直接法」の長所が顕著に表れてくる。日本語で直接学習内容を

説明することによって、耳の練習効果は言うまでもなく、留学生の母語では解説しきれない類義語の微妙な区別、使い分けなどについては細かいニュアンスまで解釈でき、日本語でしか味わえない言葉の魅力を少しずつ学習者に感じさせていく、等の効果がある。

九共大には日本語教育の資格を持つネイティブ教員はもとより、協定校から定期的に中国人の日本語教育客員教員も派遣されている。かつてほとんど日本語をゼロから学んだ学習者だった中国人日本語教師は、ある意味では、留学生たちの大先輩にあたり、成績の伸び悩み、学習の方法など、悩みの相談相手やアドバイザーとして、学習者に適切な助言ができる。そうした点は留学生にとって心強く、彼らが安心して九共大での留学生生活を送ることができる要因の一つだと思われる。

8. 今後の課題 特に卒業後の進路をめぐって

今回の留学生アンケート調査からは、中国および日本での日本語能力修得に関しては、おおむね満足とする回答が得られた。しかし、その実力が卒業後の就職や進学に実際に通用するか否かについては、検証を要する。この点を含め、次稿では自由記述を含めたアンケート結果の詳細な分析と、解決すべき課題、特に日中双方の日本語教育授業の連携、就職・進学に資する日本語能力をいかに涵養するか、その手立てについて考察したい。本稿では、さしあたり既卒業生の進路を一覧表で示す。

Table 6 留学生の卒業後進路

年度	学生数	大学院進学 (希望含)	帰国	日本で就職 (未定含)	退学	留年
2011年度春季	66名	20名	32名	11名	2名	1名
2011年度秋季	30名	6名	23名	1名		
2012年度春季	46名	17名	23名	6名		

【参考文献】

- 1) 包阿榮「内蒙古大学日本語学部の学習ストラテジーについての一考察」,
- 2) 呉素蓮, 松田高史「天華学院における日本語教育の現状と課題」,
- 3) 于衛紅・沙秀程「中国における大学日本語教育の問題点について」参照。いずれも『九州共立大学研究紀要』所収〔1〕6-1, 2015/9, pp.95-100, 2) 5-1, 2014/9, pp. 35-44, 3) 5-1, 2014/9, pp. 45-48〕。

Table 7 留学生アンケート回答結果表

	全対象 編入学生 87人 回答学生 78人	2年経過学生 編=5人 回答学生 4人	1.5年経過学生 編=26人 回答学生 20人	1年経過学生 編=16人 回答学生 14人	0.5年経過学生 編=40人 回答学生 40人
A. 中国での日本語修得状況					
1) 中国の大学2年間の日本語勉強で到達した日本語能力のレベル					
1. N1レベル	17	0	8	3	6
2. N2レベル	21	2	8	2	9
3. N3レベル	10	0	1	1	8
4. N3レベル未満	3	1	0	1	1
5. 不明	26	0	3	7	16
2) 九州共立大学に留学するまでに中国の大学で習った日本語の科目(複数回答)					
1. 聴解	73	1	19	14	39
2. 会話	71	1	18	13	39
3. 作文	57	1	15	8	33
4. 文法	65	2	16	10	37
5. 読解	60	2	17	10	31
6. 日本文化	37	2	10	7	18
7. 基礎(総合)日本語	69	2	20	12	35
8. 翻訳	37	1	12	6	18
9. ビジネス日本語	16	2	4	5	5
10. その他	0	0	0	0	
3) 九州共立大学の留学試験を受けるために、中国の大学で開設してほしい科目(略)					
4) 現在の日本語能力は、専門科目の学習に十分なレベルになっているか。					
1. 非常に充分である	3	0	1	1	1
2. ある程度充分である	41	2	18	7	14
3. どちらとも言えない	18	2	1	4	11
4. 困難がある	14	0	0	1	13
5. かなり困難である	2	0	0	1	1
5) 日本語でコミュニケーションできるか。					
1. よくできる	9	1	4	3	1
2. ある程度できる	44	3	13	7	21
3. どちらとも言えない	18	0	3	0	15
4. 困難がある	5	0	0	3	2
5. 非常に困難である	2	0	0	1	1
6) 中国の大学で意欲的に日本語の学習をしたか					
1. 意欲的にした	26	0	10	4	5
2. ある程度意欲的にした	69	3	6	7	24
3. どちらとも言えない	19	1	4	1	7
4. あまり意欲的ではなかった	7	0	0	1	4
5. 意欲的にはしなかった	1	0	0	1	0
7) 自分の今までの日本語勉強方法と勉強態度に満足しているか					
1. 満足している	5	0	2	1	2
2. ある程度満足している	39	2	12	4	21
3. どちらとも言えない	18	1	4	5	8
4. あまり満足していない	12	0	2	3	7
5. まったく満足していない	3	1	0	0	2

	全対象	2年経過学生	1.5年経過学生	1年経過学生	0.5年経過学生
B. 九州共立大学での日本語の学修					
1) 九州共立大学の日本語授業科目の時間数はあなたにとって適切ですか					
1. 聴解					
適切である／適切ではない	43 / 34	1 / 3	10 / 10	5 / 9	27 / 12
時間数を増やすべき	27	2	9	5	11
時間数を減らすべき	7	1	1	4	1
2. 会話					
適切である／適切ではない	39 / 37	1 / 3	10 / 10	7 / 7	21 / 17
時間数を増やすべき	33	2	10	5	16
時間数を減らすべき	4	1	0	2	1
3. 作文					
適切である／適切ではない	50 / 27	2 / 2	12 / 8	5 / 9	31 / 8
時間数を増やすべき	21	1	8	6	6
時間数を減らすべき	6	1	0	3	2
4. 読解					
適切である／適切ではない	49 / 28	2 / 2	11 / 9	5 / 9	31 / 8
時間数を増やすべき	20	1	7	6	6
時間数を減らすべき	8	1	2	3	2
5. 日本文化					
適切である／適切ではない	49 / 28	0 / 4	12 / 8	7 / 7	30 / 9
時間数を増やすべき	24	3	7	5	9
時間数を減らすべき	3	1	1	1	0
2) 九州共立大学の日本語授業で使用している教科書・配布資料は適切か					
1. 非常に適切である	17	1	4	5	7
2. かなり適切である	42	2	9	5	26
3. どちらとも言えない	13	1	5	1	6
4. あまり適切ではない	6	0	2	3	1
5. まったく適切ではない	0	0	0	0	0
3) 九州共立大学の日本語授業内容の難易度は適切か					
1. とても自分のレベルにあっている	9	2	2	2	3
2. 自分のレベルにあっている	47	2	11	8	26
3. どちらとも言えない	15	0	5	4	6
4. あまり適切ではない	6	0	2	0	4
5. まったく適切ではない	1	0	0	0	1
4) 九州共立大学の日本語授業教員教授法に対する満足度					
1. 非常に満足している	42	2	10	8	22
2. ある程度満足している	31	2	10	6	13
3. どちらとも言えない	4	0	0	0	4
4. あまり満足していない	1	0	0	0	1
5. 非常に不満である	0	0	0	0	0
5) 九州共立大学の日本語授業で日本語能力は高まっているか					
1. とても高まっている	15	1	4	4	6
2. ある程度高まっている	46	2	11	7	26
3. どちらとも言えない	13	1	5	2	5
4. あまり高まっていない	3	0	0	1	2
5. まったく高まっていない	1	0	0	0	1
6) 九州共立大学の日本語科目の教科設置は適切か					
1. 非常に適切である	15	1	3	2	9
2. ある程度適切である	48	2	14	9	23
3. どちらとも言えない	12	1	3	2	6
4. あまり適切ではない	3	0	0	1	2
5. まったく適切ではない	0	0	0	0	0
7) 九州共立大学を卒業した後の進路は					
1. 日本の大学院に進学	34	2	8	4	20
2. 日本の会社に就職	17	1	5	4	7
3. 帰国して日系企業に就職	16	1	4	5	6
4. 中国の大学院に進学	3	0	0	0	3
5. まだわからない	8	0	3	1	4
8) 九州共立大学での留学生活は？					
1. とても満足している	29	1	6	5	17
2. 少し満足している	27	2	9	4	12
3. どちらとも言えない	18	1	4	3	10
4. 少し後悔	3	0	1	1	1
5. かなり後悔している	1	0	0	1	0

Table 8 九州共立大学 留学生カリキュラム 3年次9月編入学生用 (2014年度)

科目区分	科目名	学年配当 単位数	認定 単位数	3年次		4年次		配置 単位数	最低必要 単位数	要卒 単位数	実修得 単位数				
				後	前	後	前								
キャリアデザイン	キャリア基礎演習A [混合クラス]	前1	個認 1					6単位 (内 認定 4単位)		6単位	6単位 (内 認定 4単位)				
	キャリア基礎演習B [混合クラス]	後1	個認 1												
	キャリアデザイン I	2前1	個認 1												
	キャリアデザイン II	2後1	個認 1												
	キャリアデザイン III	3前1			必										
	キャリアデザイン IV	3後1				必									
	インターシップ(企業研修)	2前2					選								
総合教養科目	ことばの世界 [留学生クラス]	前2	個認 2					2単位 (全認定)	2単位 以上	30単位	30単位 (内 認定 18単位)				
	人間と哲学ほか	1・2前/後					選								
	法と生活 [留学生クラス]	前2			指			2単位							
	歴史を考える [留学生クラス]	後2			推			2単位 以上							
	現代国家と法ほか	1・2前/後					選	2単位 (全認定)							
	異文化を考える [留学生クラス]	後2	個認 2					2単位 以上							
	数学入門ほか	1・2前/後					選	12単位 (内 認定 8単位)							
	教養コア基礎ゼミ I [日本語演習A]	前2 週2コマ	個認 2					2単位 以上							
	教養コア基礎ゼミ II [日本語演習B]	後2 週2コマ	個認 2					2単位 以上							
	教養コア基礎ゼミ III [日本語演習C]	前2 週2コマ	個認 2					2単位 以上							
	教養コア基礎ゼミ IV [日本語演習D]	後2 週2コマ	個認 2					2単位 以上							
	総合科目 特殊講義A [日本語昇級講座]	3前2				指		2単位 以上							
	総合科目 特殊講義B [日本語昇級講座]	3後2			指			2単位 以上							
	英・独・仏・韓文化ゼミナール I ~ II	3前/後					選	2単位 以上							
	日本語・文化ゼミナール I	3前2				推		2単位 以上							
	日本語・文化ゼミナール II	3後2			推			2単位 以上							
	総合教養発展ゼミナール I・II	3前					選	2単位 以上							
	語学教育	日本語 I [中級]	前1			指						8単位 (内 認定 4単位)	8単位 以上		
		日本語 II [中級]	後1			指									
		日本語 III [中～上級]	前1				指								
日本語 IV [中～上級]		後1			指										
新修外国語研修 (宿泊合宿体験)		集中2			推		推								
英・独・仏・韓 I・II			括認 2												
英・独・仏・韓 III・IV			括認 2												
インテンブ・イングリッシュ		1前/後1					選								
海外英語研修		1-4年2					選								
情報		情報リテラシーA	1前1				指		2単位	2単位 以上					
	情報リテラシーB	1後1				指									
	情報リテラシーC・D	2前/後1					選								
健康	スポーツA～F		括認 2					2単位 (全認定)	2単位 以上						
	健康科学	1前/後2													
専門教育科目	導入	経済・経営入門 [留学生クラス] 経済学概論 [留学生クラス] 経営学概論 [留学生クラス]	個認 2					6単位 (内 認定 2単位)	6単位						
	基幹	簿記入門ほか			○	○						4単位	4単位以上		
	関連	基礎数学ほか		括認 10								10単位 (全 認定 10単位)	10単位以上		
	コース	各コース科目(他コース科目含む)		括認 他コース 10単位	4 科目	4 科目	5 科目	4 科目	44単位 (内 認定 10単位)	自コース 20単位以上 他コース 10単位以上	76単位	76単位 (内 認定 26単位)			
	演習科目	コース演習入門	2前	個認2									12単位 (内 認定 4単位)	12単位	
		演習 I	2後	個認2											
		演習 II	3前					必							
		演習 III	3後			必									
		演習 IV	4前				必								
		演習 V	4後					必							
	卒業論文							推							
	自由選択科目			括認 12						12 単位	12単位 (全認定)				
	指=履修指定科目 推=推奨科目			認定 計60	21	20	13	10		124	124				
				41		23									

日本語能力修得に関するアンケート調査 (中国人留学生のみ)

学年	年	編入学の年・学期	年	月	入学・編入学 (いずれかを○で囲む)
----	---	----------	---	---	--------------------

A 中国での日本語修得状況について

- 中国の大学2年間の日本語勉強で到達したあなたの日本語能力のレベルは？
 1. N1 レベル 2. N2 レベル 3. N3 レベル 4. N3 レベル未満 5. 不明
- 九州共立大学に留学するまでに中国の大学で習った日本語の科目は何ですか？(複数回答可)
 1. 聴解 2. 会話 3. 作文 4. 文法 5. 読解 6. 日本文化 7. 基礎 (総合) 日本語
 8. 翻訳 9. ビジネス日本語 10. その他 ()

3) 九州共立大学の留学試験を受けるために、中国の大学でどんな科目を開設してほしいですか。
 ()

4) あなたの現在の現在の日本語能力は、専門科目の学習に充分なレベルになっていますか？
 1. 非常に充分である 2. ある程度である 3. どちらとも言えない 4. 困難がある
 5. かなり困難である

5) 日本語でコミュニケーションできますか？
 1. よくできる 2. ある程度できる 3. どちらとも言えない 4. 困難がある
 5. 非常に困難である

6) あなたは中国の大学で意欲的に日本語の学習をしましたか？
 1. 意欲的にした 2. ある程度意欲的にした 3. どちらとも言えない 4. あまり意欲的ではなかった
 5. 意欲的にはしなかった

7) あなたは自分の今までの日本語勉強方法と勉強態度に満足していますか？
 1. 満足している 2. ある程度満足している 3. どちらとも言えない 4. あまり満足していない
 5. まったく満足していない

B 九州共立大学での日本語の学修について

1) 九州共立大学の日本語授業科目の時間数はあなたにとって適切ですか？ 以下の科目それぞれについて、当てはまる方に○をつけてください。また、〈適切ではない〉を選んだときは、時間数の増減について当てはまる方に○をつけてください。

- | | | | |
|------------|----------------|------|-------------|
| 1. 聴解 | 適切である・適切ではない ⇒ | 時間数を | 増やすべき・減らすべき |
| 2. 会話 | 適切である・適切ではない ⇒ | 時間数を | 増やすべき・減らすべき |
| 3. 作文 | 適切である・適切ではない ⇒ | 時間数を | 増やすべき・減らすべき |
| 4. 読解 | 適切である・適切ではない ⇒ | 時間数を | 増やすべき・減らすべき |
| 5. 日本文化 | 適切である・適切ではない ⇒ | 時間数を | 増やすべき・減らすべき |
| 6. その他 () | 適切である・適切ではない ⇒ | 時間数を | 増やすべき・減らすべき |

裏面に続く

2) 九州共立大学の日本語授業で使っている教科書・配布資料は適切ですか？
 1. 非常に適切である 2. かなり適切である 3. どちらとも言えない
 4. あまり適切ではない 5. まったく適切ではない

3) 九州共立大学の日本語授業内容の難易度はあなたにとって適切ですか？
 1. とても自分のレベルにあっていて 2. 自分のレベルにあっていて 3. どちらとも言えない
 4. あまり適切ではない 5. まったく適切ではない

4) 九州共立大学の日本語授業教員の教授法に対する満足度はいかがですか？
 1. 非常に満足している 2. ある程度満足している 3. どちらとも言えない
 4. あまり満足していない 5. 非常に不満である

5) 九州共立大学の日本語授業であなたの日本語能力は高まっていると思いますか？
 1. とても高まっている 2. ある程度高まっている 3. どちらとも言えない
 4. あまり高まっていない 5. まったく高まっていない

6) 九州共立大学の日本語科目の教科書はあなたにとって適切ですか？
 1. 非常に適切である 2. ある程度適切である 3. どちらとも言えない
 4. かなり適切である 5. まったく適切ではない

7) 九州共立大学を卒業した後の進路について、当てはまる番号を記入してください。
 1. 日本の大学院に進学する 2. 日本の会社に就職する 3. 帰国して日系企業に就職する
 4. 中国の大学院に進学する 5. まだわからない

8) あなたは九州共立大学での留学生活についてどう思っていますか？
 1. とても満足している 2. 少し満足している 3. どちらとも言えない
 4. 少し後悔している 5. かなり後悔している

9) 前問8)の回答について、それぞれその理由を教えてください。
 a. とても満足している、少し満足していると答えた理由
 b. 少し後悔している、かなり後悔していると答えた理由

★アンケート調査へのご協力、ありがとうございます。